

第7回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年6月11日（月） 10:00～11:00

場 所：江別市民会館 23号室

出席委員：押谷一会長、田口智子副会長、碓井和弘委員、奥村昌子委員、岸本佳廣委員
田原久美子委員、成田裕之委員、西脇崇晃委員、萩原英樹委員、深瀬禎一委員
山崎雅江委員、豊田選子委員、中井和夫委員、三ツ井瑞恵委員、山崎啓太郎委員
（計15名）

欠席委員：安孫子建雄委員（1名）

事務局：白石企画政策部次長、政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主任

傍聴者：1名

■開会

■議事

■「えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉中間改定素案」及び「えべつ未来戦略素案」に対するパブリックコメントの実施結果について

【事務局から資料説明】

・資料1 「えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉中間改定素案」及び「えべつ未来戦略素案」に対する市民意見募集の結果と市の考え方について

【質疑】

○押谷会長

資料1の1ページNo.4の意見は、直接、素案に対する内容ではないためE評価ですが、他の意見についてはA～C評価となりました。

前回までの行政審議会では各委員から様々な意見をいただきましたが、パブリックコメントでの市民からの意見は2人、10件にとどまりました。いただいた意見は貴重な意見として反映させたいと思いますが、行政審議会では策定作業を行っている「えべつ未来戦略」や「えべつ未来づくりビジョン」の構図として含められないものもあるかと思っておりますので、担当部署において参考としていただくこととなります。

また、いただいた意見や市としての考え方は、資料をホームページ等に掲載し、市民の目に触れることとなります。

パブリックコメントについては以上となります。いただいた意見について、数値目標などは難しいところですが、内容に反映できるものは私、田口副会長、事務局と修正したいと思います。一任していただけますでしょうか。

○各委員

了。

○押谷会長

今後、計画を進めるにあたり意見をまとめますが、各委員から意見、要望をいただきたいと思えます。

○碓井委員

押谷会長の話にありましたように、パブリックコメントの意見が少ないと思えます。江別市民はあまり不満を持っていない可能性もありますが、悪く言うとあまり期待していないのではないのでしょうか。江別市民の心に伝わる公表の仕方とパブリックコメントの求め方をされた方が良くと思えます。

パブリックコメントで高齢者や子育て世代、女性などの意見をたくさんいただけるならば、さらに良くなると思えます。

○押谷会長

碓井委員の意見にあったように、パブリックコメントが少なかったことは残念です。それは市民が現状に満足しているのか、それとも関心が無いかのいずれかだと思えますが、残念ながら後者だと思っております。

現在見直しをしている「えべつ未来戦略」、「えべつ未来づくりビジョン」も時期が来れば、また見直しを行うこととなりますので、今後も市民に関心を持ってもらえる仕組みを検討していきたいと思えます。

○奥村委員

碓井委員と同様の意見になりますが、パブリックコメントの意見が少なかったと思えます。

今後、2023年までのえべつ未来戦略を進める中で、大きな課題のひとつではないでしょうか。

次の5年ではパブリックコメントを出しやすい環境づくりを展開する必要があります。そのためには、資料の読みやすさも重要であり、どうすれば、まちづくりの主役である市民の意見が反映されるのかを考えることが重要です。

○岸本委員

えべつ未来戦略の具体的な取組内容が市民に届いていないことが、パブリックコメントの結果につながっていると思えます。

毎年、指標の評価を行い、効果は出ていると思えますが、私自身、委員になり初めて意識するようになりました。身近に感じる評価の結果や都市近郊農業の特性を生かした観光などを市民に浸透させる工夫があっても良いのではないのでしょうか。

戦略の全体像では、大学生の活躍の場が少なく、見え方が弱いと感じますので、今後検討していただきたいと思えます。

○田原委員

この資料に目を通した際に、意見提出人数が2人ということに驚きました。市民に関心がなく、残念に思えます。

パブリックコメントでは高齢者のバス・タクシーについての意見がありましたが、文京台地区に住んでいる方から、バスがなく江別市立病院に通院する際にタクシー代が毎回5,000円程度かかるという話を聞きました。自分が意見を出しても市は動かないと思っている

方もいらっしゃるので、今回意見のあった高齢者のバス・タクシー利用についての取組をさらに進め、計画を具体化してほしいと思います。

○成田委員

同じ意見になりますが、提出人数が2人ということは残念です。関心がないということもあると思いますが、広報やホームページに掲載されていてもどうしていいかわからないという方が多いと思います。

昨年度行った意見交換会では世代を問わず活発な意見が出ていましたので、意見を引き出す仕組みづくりが必要だと思います。

○西脇委員

十分な情報がある中で、市民がどのように主体的に参加することが出来るのかという仕組みが重要となります。市民の声が伝わりやすい機会という意見がありましたが、そのような際には青年会議所でも全面的に協力したいと考えております。

今回のパブリックコメントという形式では対応する労力が大きいので、単純なアンケート形式や選択項目の集約などハードルの低いものを設けると、より幅広い層からの意見をいただけるのではないのでしょうか。現状では特定の人意見になっていると思います。また、意見を提出する市民も行政への要望の場ではないということを確認にした方が良くと思います。市民と行政が協働し、どのようなまちをつくりたいかという柱を決めるまちづくりの方向性についての話であり、陳情の場ではないという共通認識をもった上で行えれば良いと思います。

○萩原委員

初めて行政審議会に参加し、行政が計画に基づいて動いていることがよく分かりました。また、限られた予算で緻密に取り組んでいると感じました。

江別市民は札幌市に近いこともあり、衣食住、病院、学校など全ての面で選択肢が多く、不満があったとしても自分で対応できる環境にあります。

行政は最大公約数を求めて時に少数意見にも耳を傾けますが、同じように農業分野でも需要に基づいて様々な農産物を生産しています。しかし、差別化と需要は時にミスマッチが起こります。我々が求めているものと違った感覚もあるため、自己満足ではなく、少数意見にも耳を傾けることが必要だと思います。

○深瀬委員

パブリックコメント自体が市民に受け入れられておらず、理解されていないので、まず周知を徹底しなければならないのではないのでしょうか。

今回、パブリックコメントの資料を情報図書館で探しましたが見つからず、その結果、意見提出人数が2人でした。2人からしか意見が出ないのは市民への働きかけが少ないからだと思います。自治会の役員会でパブリックコメントへの参加を呼びかけても知らない人が多くいました。

以前からパブリックコメントの手法は改善されておらず、本当に市民からの意見をいただきたいのか疑問です。パブリックコメントを実施したから良いというわけではないと思います。

○事務局

パブリックコメントについての意見が多いので、補足させていただきます。

公共施設等の窓口で配布していたパブリックコメントについての資料は、市民の方に31部お持ちいただきましたほか、ホームページを閲覧した方も多くいらっしゃると思います。

また、同時期に同じ方法で公共交通のバス路線関係についてもパブリックコメントを行っており、そちらでは21人から意見をいただいております。総合計画はバス路線とは異なり、生活に身近な具体的なものではない内容のため、意見が少なかったのではないかと考えております。いずれにしても今後工夫は必要と考えております。

○山崎（雅）委員

総合計画自体があまり定着していないと思いますので、関心が無ければ難しい内容だと思います。資料を持って行った方やホームページの閲覧者はいますが、結果を踏まえて意見を述べること自体、責任と難しさがあります。

私は自分の住むまちに自信を持っており、良いまちだと思うので、市の考え方に不満などの意見を述べる機会があることは素晴らしいことだと思います。

パブリックコメントへの意見反映状況は7件がC評価となっていますが、今後も意見を取入れていただきたいと思います。

○豊田委員

先ほど事務局から窓口で31部の資料が市民に持って行かれたという話がありましたが、江別市の人口12万人を考えますと、やはり少ないと思います。

今後、パブリックコメントを市に提出しやすい、言いやすい形で広く進めていく必要があると思います。

○中井委員

様々な意見が出ましたが、それをどう生かすか検討していただきたいと思います。

やはり、計画を検証する際には、計画当初から参加しなければ難しいという印象があります。

1点目、これまでの行政審議会では様々な意見を述べてきましたが、人口の社会増という捉え方について反映されていないと感じます。

2点目、コンパクトシティについて問題提起をしてきましたが、この点は盛り込まれており納得しております。

最後に3点目ですが、都市基盤の整備の問題は、延命化や長期使用が必要ではないでしょうか。

これらの点について今後検討していただきたいと思います。

○三ツ井委員

特別な専門的知識もない市民感覚の意見になりますが、意見を求められた場合、良い悪いという意見だけではなく、何か具体的な提案等を言わなければならないのかなと思ってしまいます。

碓井委員の発言にもありましたが、満足はしていないが、特段不満があるわけではないという意見は、顕在化させる難しさがあると思います。仕組み自体を見直すことで、一般的な

意見も吸い上げられる可能性もあるのではないのでしょうか。

江別市地域公共交通網形成計画の中で高齢者に対する足の確保についての意見がありましたが、それは観光推進にも期待できるものだと思います。

○山崎（啓）委員

計画自体の目標の提案なので、意見することは難しいと思います。

パブリックコメントの認知度が低いため、行政が何を行うかを市民が見て楽しむことも良いのではないのでしょうか。

まちづくりを通して、市民と行政が互いの事情を理解し合えていないと感じました。行政をただ批判する方もいますが、行政は公平性の確保、財政面、事業に対する職員数などの事情があるため、お互いを理解し手を取り合うことにより、建設的なまちづくりを進めることができると思います。

○田口副会長

パブリックコメントは欧米から発信されており、主体的に物事を主張する文化が浅い日本にとって難しい手法だと思います。特に、高齢者が多い場合、そのような文化がなく、口で話すことは出来ませんが文字化するのは難しいでしょう。

そのような中で、行政審議会の委員一人一人が各々のネットワークでパブリックコメントに対して働きかけが出来たならば、実現出来ることもあったのではないかという大きな反省点があります。

具体的には、江別ブランドを作ることにより、域外の人を域内に入れる、または域内のものを域外に出す仕組の中で、ヒト・モノ・カネを動かすインフラ整備が重要だと思いました。

また、育児、就労、雇用、労働などの問題もあると思いますが、地域定着につなげられる体制を整えることも重要だと思います。

○押谷会長

各委員からの大部分の意見はパブリックコメントの意見が少なかったという反省点でした。いただいた意見は重要なものであり、今後推進していく、えべつ未来戦略において重要なことは市民に対する信頼感だと思います。

先日、学会でまちづくりについて発表しました。例として、富良野マルシェは人口約2万人都市の中心市街地活性化として行っています。また、ニセコのビュープラザでは直売所を行っております。ニセコは住民参加型で行っており、行政が支えていくというよりも住民がまちをつくる形となっています。

未来戦略についても、まちをつくるのは市民、市を構成する大学、記載はありませんが学生など様々な主体が主体的な形で参加をすることであり、まちづくりとして協働をキーワードとして掲げました。しかし、協働を掲げながらもパブリックコメントの意見は少ないという実状があります。

市民が満足しているということかもしれませんが、私は無関心なのではないかと思っています。

公共交通についてのパブリックコメントは21名から意見が出たという話がありましたが、身近なことには関心があり、危機感を持っています。しかし、意見を出しても具体的な

策を講じなければ、市民は意見を述べても無駄だと思ってしまい、無関心になってしまいます。マザーテレサは無関心の反対語は愛だと言っています。江別は愛し愛されるまちづくりを進めようとしているので、無関心ではなく信頼関係に基づいたつながりをつくる必要があります。

総合計画見直しまでの期間を無駄にしないため、愛情をもってまちづくりに取り組むことが出来る参加型の仕組みづくりを検討したいと思います。

えべつ未来戦略（素案）3ページに全体像の図が記載されていますが、行政は市民を支える役割であり先導する役割ではないと思います。市民が協働のまちづくりに参加し、関心を持つ仕組みについて補足するような表現を追加してよろしいでしょうか。

○各委員

了。

○押谷会長

繰返しになりますが、協働のまちづくりと掲げている中で、どうすればより良いまちづくりが出来るのかを事務局と調整し追加したいと思います。

パブリックコメントで多くの意見が出たならば、必ずしも市民の関心が高いということではありませんが、今回は意見が少なかったという現実をふまえて取り組むことが必要だと思います。

これまで7回行政審議会を開催し、率直な意見をいただきましたので、事務局と調整したいと思います。

他に質問、意見はありませんか。

○各委員

なし。

○押谷会長

本日各委員からいただいた意見、パブリックコメントでの意見、市民がどのようにまちづくりに参加できるか、学生の活躍の場等について見直し、答申案をまとめますので、次回の行政審議会において意見をいただきたいと思います。

■その他

■次回の審議会について

■閉会